

さまざまな文末表現

日本語は文末で肯定や否定などが決まるので、それを予告する副詞があります。

①否定や禁止の言葉を伴うもの

* けっして、少しも、まったく、全然、断じて、絶対に —— ない。いけない。

②肯定（断定）の言葉を伴うもの

* もちろん、むろん、当然、必ず —— である。はずである。

③希望の言葉を伴うもの

* どうか、どうぞ、なにとぞ、ぜひ —— してほしい。

④比況の言葉を伴うもの

* あたかも、ちょうど、まるで、さも —— ようだ。

⑤推量の言葉を伴うもの

* たぶん、おそらく、おおかた、きっと —— だろう。

⑥仮定のことばを伴うもの

* もし、たとえ、かりに、万一 —— ならば、～。

⑦疑問・反語を伴うもの

* なぜ、どうして、いつ、だれが、どこで —— か。

1. 次の文の下線部の予告の副詞に注意して、（ ）の中に適切な文末表現を入れてください。

①けっして嘘は申し（ ）。

②神様、どうぞあの人に会わせて（ ）。

③よく勉強したので、国語はたぶん満点（ ）。

④たとえ受験に失敗（ ）、自殺なんかするなよ。

⑤なぜこんな簡単なことができない（ ）。

2. 次の予告の副詞を使って、文の続きを作ってください。

①先生の言う通りにすれば（ ）できるはずだ。

②努力は（ ）報われるだろう。（ ）あきらめてはいけない。

③（ ）蝶のように舞い、（ ）蜂のように刺す。

④（ ）虎になったのか、（ ）私にはわからない。

⑤（ ）妊娠していなくとも、（ ）捨てないで。